

四条金吾殿御返事

建治二年六月二十七日 五五歳

一切衆生、南無妙法蓮華經と唱ゆうらくふるより外の遊樂なきなり。經に云はく「衆生所遊樂」云云。此の文じじゅうほうらくあに自受法樂にあらずや。衆生のうちに貴殿もれ給ふべきや。所とは一閻浮提えんぶだいなり。日本国は閻浮提の内なり。遊樂とは我等が色心依正ともに一念三千自受用身の仏にあらずや。法華經を持ち奉るより外に遊樂はなし。現世安穩げんぜあんのん・後生善処ごしょうぜんじょとは是なり。たゞ世間の留難来たるとも、とりあへ給ふべからず。賢人聖人も此の事はのがれず。たゞ女房と酒うちのみて、南無妙法蓮華經ととなへ給へ。苦をば苦とさとり、樂をば樂とひらき、苦樂ともに思ひ合はせて、南無妙法蓮華經とうち唱となへ居あさせ給へ。これあに自受法樂にあらずや。いよいよ強盛の信力をいたし給へ。恐々謹言。

建治二年丙六月二十七日

日 蓮 花 押

四 条 金 吾 殿 御 返 事